

## 令和4年度全国高等学校総合体育大会 バスケットボール競技大会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和4年度全国高等学校総合体育大会 バスケットボール競技大会						
●日程	令和4年7月27日 (水)		～		令和4年7月29日 (金)		
●会場	高松市香川総合体育館 高松市総合体育館 丸亀市民体育館						
●講師	前田喜庸 様 有澤 重行 様 塩谷 禎 様						
●スケジュール	令和4年7月21日 (木)						
	(ZOOMにて)						
	19:00 審判会議						
	19:30 大会前研修①「インテグリティ」②「香川IH成功に向けて」③より良い判定のためのポジション・アジャスト～地元香川での取り組みを踏まえて～」						
	令和4年7月27日 (水) ～						
	7/26 21:30～ PGC						
	7/27 12:50～ ゲーム開始						
	令和4年7月28日 (木) ～						
	7/27 21:00～ PGC						
	7/28 15:00～ ゲーム開始						
●担当試合	令和4年7月29日 (金) ～						
	7/28 21:30～ PGC						
	7/29 10:00～ ゲーム開始						
	令和4年7月27日 (水) 12:50 ～						
	対戦カード	英明(香川)		VS		東海大学付属諏訪(長野)	
	主審	CC	有澤 重行	U1	太田 令菜	U2	三島 彩
	講師/主任						
	講評	IRの配置はありませんでしたが、CCの有澤氏よりご講評いただきました。 ・笛のタイミングを工夫すると良いケースがある。基本的には、プレーを分析し影響を見てから笛を鳴らす、中にはジャストでコールしたいケースが出てくる。本ゲームでは、AOSで接触影響責任が成立しその後踏み切るまでに時間がかかったケースでは、ショットを打ち終わるのを待つのではなく、鳴らしてショットの行方を待っていたほうが良かった。					
	自己の感想	自主的に取り組むことが今大会のテーマだったので、クルーで手分けしてチームスカウティングを行い、情報を共有した。事前にチーム情報を把握していたので、メカニクスの実践で考慮しながらローテーションやポジションアジャストへ繋げることができたので、事前の準備の大切さを実感した。また、CC有澤氏は常に時計、プレイヤー、チーム状況、処置などについて声に出してオンザコートで情報を共有していた。ショットクロックがラスト5秒だと「マジックタイム1分35秒」と発してからスローインを始める。スピードアジャスターとして、選手もTOもクルーにもインプットされる声かけで参考にさせていただきたいと感じた。声でのリードについて私も実践していきたい。トラベリングの判定基準については今一度確認する必要がある。					

●担当試合	令和4年7月28日 (木) 15:00 ~							
	対戦カード	埼玉栄(埼玉)			VS	開志国際(新潟)		
	主審	CC	大谷 英紀	U1	加藤 毅	U2	太田 令菜	
	講師/主任							
	講評	IRの配置はありませんでしたが、CCの大谷氏よりご講評いただきました。 ・バイオレーションについて整理必要があった。ダブルドリブルなど。						
自己の感想	クローズアングルからのクロスコールをしまい、メカニクスの実践において課題が残った。一つの判定に一喜一憂する暇はないはずが、プレーに集中できていない時間帯があった。しかしながらクローに助けていただきながら、後半へ切り替え、積み重ねた。ポイントのインサイドにはU2加藤氏が声をかけながら、プレイヤーにリーガルプレーを意識させることができていた。自分の中でいかにプライマリの理解を深め、実践し続けることが大切かを再確認した試合となった。選手やチームに良いゲームを提供するために、常に意識していく。							
●担当試合	令和4年7月29日 (金) 10:00 ~							
	対戦カード	奈良文化(奈良)			VS	聖カタリナ(愛媛)		
	主審	CC	伊藤 亮介	U1	太田 令菜	U2	根反 祥恵	
	講師/主任	堀内 純 様						
	講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフェンスのグッドコールのプレゼンについて、もっと大きく強くプレゼンにもっていきたい。「見えますよ」と表現するところ。</li> <li>・トレイルのポジションアジャスト、グッド。</li> <li>・ジャンプボールなのか、ファールなのかの手の出し間違いは、気を付ける。余裕をもって判定し、瞬発的に出すと間違えてしまうので。2回目の方は、ファールと迷ったのかなと感じた。実際ファールでも良かった。その際に、残り時間、点差、チームファールを把握していることはマストである。</li> <li>・地元ブロックに帰ってCCを努める際に今日のCCのようなゲームコントロールをぜひ真似して実践してほしい。声を出しての情報共有や、チームへの声かけ、特にタイムアウト時のクローでの会話をみなさんにもしてほしい。</li> </ul>						
自己の感想	<p>クローとは「影響の出方をみましょう。小さい接触でも影響が大きく出るパターンや、ビッグインパクトでも互いにリーガルであれば無理やり決め切らない」とPGCで共有した。レフェリーディフェンスすると共に、オフェンスの影響を判定するので、ポジションアジャストがいかに重要か分かる。意識的にポジションアジャストを心がけた。昨日よりプレーをオープンアングルで判定することができたと感じた。その中で、ヘルドボール判定時に手をグーで出してしまったケースがあり、瞬間的なプレゼンになってしまったことが反省点。特に点差のないゲームで一つの笛に注目の集まる場面なので、チーム、会場、映像を通してしっかり伝えなければならなかった。原因としては、プレーに近いことや、予測、準備が至っていなかった。講評でもいただいていた通り、ゲームフローの把握をもっと意識しておかなければならなかったと感じている。</p> <p>本大会を通して、ゲームへの準備から、オンザコートでの取り組み方を学ぶことができた。特にオンザコートでの声でのリードについてはすぐに実践していきたい。試合中にインプットした情報をアウトプットし、自分やクローと共有し、1試合処置ミスなく良いゲームにしていくため、積み重ねていきたい。</p> <p>本大会実施にあたり現地香川の審判員の皆様には大変なご配慮いただき、現地高校生にはTO、SS、コートキーパーなどのご協力をいただき試合を行うことができました。心より御礼申し上げます。</p> <p>派遣にあたり、ご指導いただいた審判員の皆様、ご配慮いただいた審判委員会の皆様、大阪府バスケットボール協会の皆様に心より御礼申し上げます。</p>							